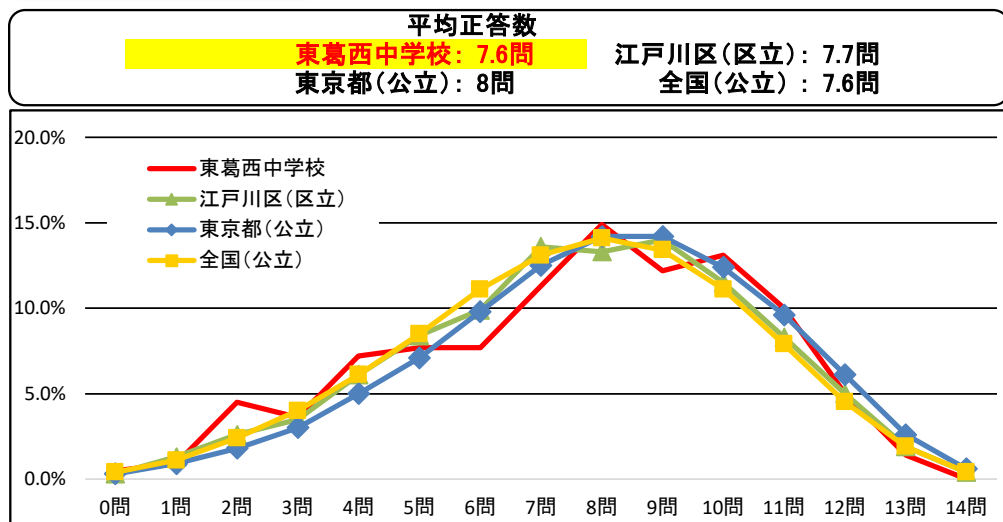


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 東葛西中学校

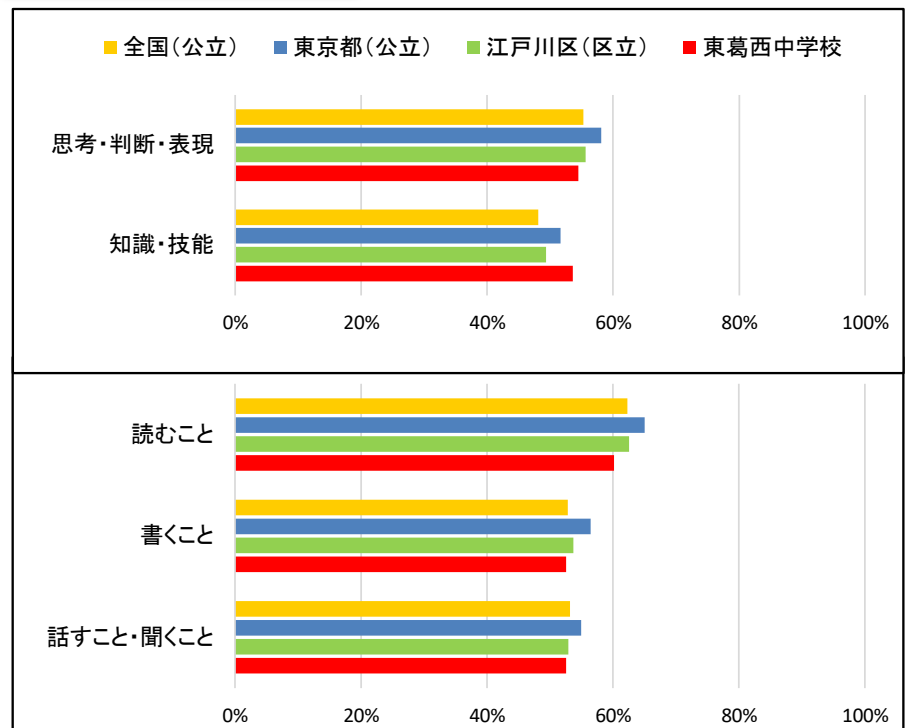
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

東葛西中学校	54%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-3.0

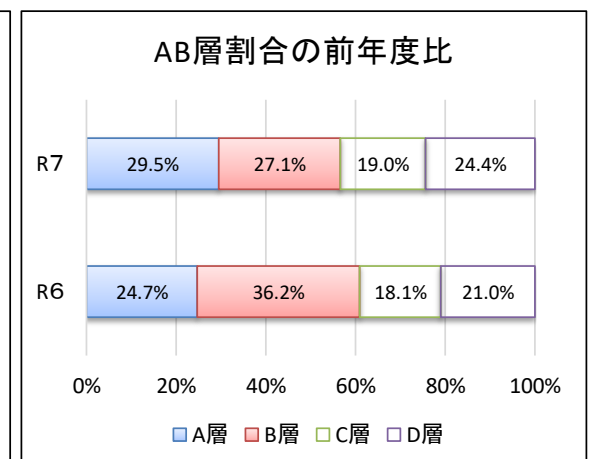
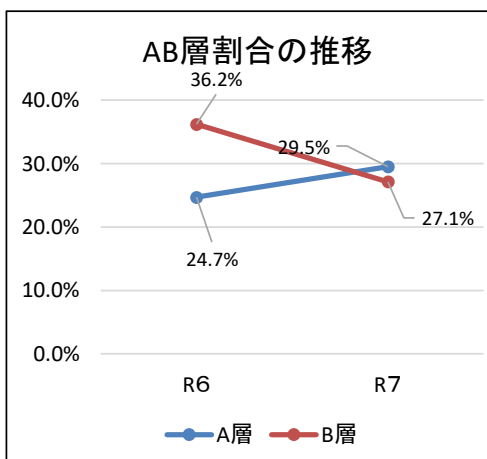
「領域別」の結果



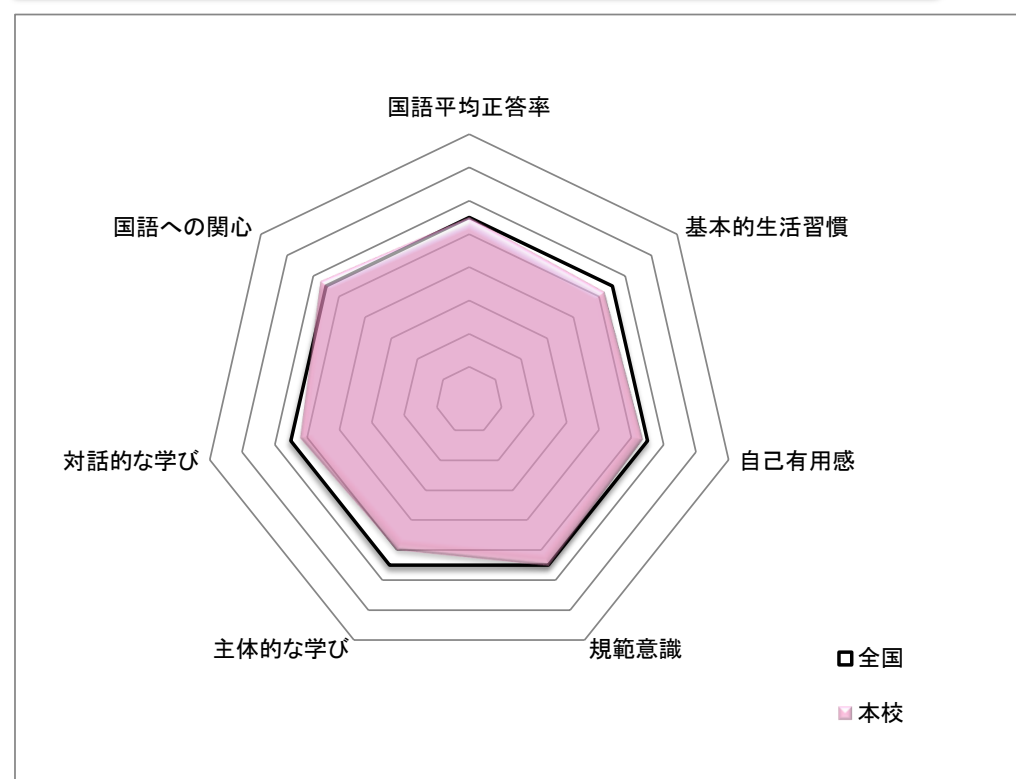
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

国 語	上位 A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	下位 D層 0～5問
	東葛西中学校	江戸川区(区立)	東京都(公立)	全国(公立)
東葛西中学校	29.5%	27.1%	19.0%	24.4%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

全体的に全国平均とほぼ同水準で推移しており、大きな乖離は見られない。「国語平均正答率」「国語への関心」の項目で全国とほぼ同程度か、わずかに上回っているが、一方で、「主体的な学び」や「対話的な学び」の項目では、やや全国より下回っているため、思考力・表現力を伸ばす学習活動の充実が今後必要である。「基本的な生活習慣」「自己有用感」「規範意識」など、学力の基盤となる生活・意識面は全国平均に近く、安定している。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭・地域と連携し、補習教室やエドスク、自習教室への参加を呼び掛けるなど、学習への意欲を支える環境づくりを進める。保護者への情報発信や地域学習の機会を通して、共に育む体制を強化する。学校だけでなく、家庭でも「毎日短時間でも机に向かう」習慣を大切にする意識を共有する。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
 本校のAB層の合計は56.6%と6割弱である。全国53.3%より高く、東京都の59.6%よりやや低い結果であった。
 上位層の安定した学力定着が見られる一方、中位層では、思考力・表現力を要する問題での課題がうかがえるため、CD層の育成とAB層のさらなる学力の定着を図る。毎時間の授業では、前時までの振り返りの時間を確保し、具体的な目標を明示して見通しをもたせる。また、ワークシートなどに取り組む際は、書く前に構成を整理させるなど、型を分かりやすく提示して取り組みやすくする。正答にたどり着けなくても、「近づけた」ことを評価し、意欲的に取り組めるようにする。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

教員間で誤答傾向や指導ポイントを共有し、単元ごとのつまづきを可視化する取り組みを進め、授業を通して、思考過程を重視した授業づくりを推進し、指導力の向上を図る。また、校内研修等での授業参観の機会を最大限に活用し、考えさせる授業実践を他の教科からも学び、教科部会で話し合い、さらなる授業改善を目指す。

・基礎学力の保障

朝読書や短文要約、漢字小テストなどの活動を授業内で固定して取り入れる。また、よむYOMUワーク等のさらなる活用や、教科を越えて「読む・書く・話す・聞く」活動を計画的に取り入れ、表現力を育む。説明的文章では、段落の役割や接続語の働きに注目させ、論理のつながりを可視化する。作文や記述問題においては、根拠をもって意見を述べる指導を徹底する。

・学習習慣の確立

フォーサイト手帳の活用、提出物点検を通して学習習慣の確立を促す。小さな成功体験を積み重ね、自己効力感を高める支援を継続する。家庭での実践が難しい生徒には、補習教室や自習教室に参加させ、学校で学習の時間を確保する。

・AB層の育成

知識や語彙にとどまらず、文章構成・論理的表現・読解の深まりを育成する。筆者の主張に加え、反対意見や自分の立場を考える活動を取り入れ、対話的読解(グループディスカッションや立場別意見交流)を行う。根拠を明確にして意見を書く練習を積み重ね、文章構成(序論・本論・結論)を意識させ、論理的思考力を育てる。